

大正駅(JR環状線)①

近代紡績発祥の地・三軒家を歩く

大正駅(地下鉄長堀鶴見緑地線)

「大阪あそ歩マップ集」
その1 No.027

JR・地下鉄大正駅

大正区は沖縄県出身者が多く住んでいて「リトル沖縄」とも呼ばれます。その影響で大正駅周辺にも沖縄料理店が数多く点在しています。

①木津川口遠見番所跡

- 当地はかつて姫島と呼ばれていましたが、中村(木津)勘助が慶長15年(1610)に豊臣家のために軍船係船所の建設や船着場の整備などを行い、その功により勘助島と名づけられました。その後、宝永5年(1708)に幕府が木津川口遠見番所を当地に設けると、諸国の船で賑わって、木津川は大坂経済を支える大動脈となり、朝鮮通信使の船なども出入りしました。

②大正橋

- 大正4年(1915)に市電開通とともに架橋。その後、昭和49年(1974)に新橋が完成。下流側の高欄にベートーベンの交響曲第9番「歓喜の歌」の楽譜がデザインされています。

③勘助島の渡し碑

- かつての渡し船の場所で、勘助島と難波島を繋いでいました。



④中村勘助之碑(上八阪神社)

- 中村(木津)勘助は天正14年(1586)、相模(現・神奈川県)生まれの土木技術者です。寛永18年(1641)の大坂の大飢饉で役人に蔵

- を開くよう訴えますが埒があかず、妻子と別れて困窮した農民と一緒に蔵破りを決行。人々を救ってから自首しました。一時は死罪が決まりましたが庶民の助命嘆願が絶えず、勘助島へ島流しとなりました。その後も三軒家に上八阪神社を勧請したり、田地を寄進したりと、地域に多大な功績を残しました。上八阪神社には中村勘助之碑があります。

⑤松筒自動車学校跡

- 大正8年(1919)、当時24歳だった松本由太郎氏と友人の筒井氏が、誰もが自動車を自分で運転する時代が来ると予見して、松筒自動車学校の前身「松筒自動車同好会」を開設。日本の自動車教習所の草分け的存在でした。

⑥近代紡績工業発祥の地碑(三軒家公園)

- 明治16年(1883)、大阪紡績会社が三軒家村で操業を開始。わが国初の近代紡績工業で、明治19年(1886)に夜業のために発電機を購入すると、工場全体が不夜城のように浮かび上がり、全国各地から見学者が殺到するほどでした。その後、当地を中心に数多くの紡績、繊維会社ができ、大阪は「東洋のマンチェスター」と呼ばれました。大阪紡績会社は昭和6年(1931)に他社と合併して世界最大の紡績会社になりましたが、戦争激化とともに軍需工場に転換させられ、昭和20年(1945)の大空襲で灰燼と化しました。



JR・地下鉄大正駅

